

一般社団法人 飯塚青年会議所

THE VOICE

↑ VOICE

一般社団法人 飯塚青年会議所

■ URL <http://www.iizuka-jc.com/>

■ Facebook <http://www.facebook.com/iizukajc>



2014~
2015



IIZUKA

Junior Chamber International NEWS vol.60

一般社団法人 飯塚青年会議所

2015年度 理事長所信

2014年理事長総括

卒業生の声&新入生の声

2014年度活動報告

2015年度会員紹介

2014年を振り返って



一般社団法人飯塚青年会議所
第61代理事長

新川 修

創立61年目となる2014年は「共感」～関わりあい、共に歩む～をスローガンとして活動を行いました。そこに込めた想いとして、「同じ時代・同じ場所、そして同じ団体に生きる私たちメンバー同士が積極的に関わりあい、私たちが掲げる理想に近づくために、共に歩んで行こう」というものでした。

地域の未来を語る前に、まずは地域社会の一員である私たち自身が、青年らしく積極的に関わりあい、ひとつになることではじめて、地域社会に何らかの影響を与えることができると考えたのです。

創立70年に向けたはじめの一步として、前例にとらわれることなく議論を尽くし、誰が正しいのかではなく、何が正しいのかを追い求めた2014年度メンバーは、確かにその一步を進めることができたと感じています。

年頭の新春祝賀会、8月の事業「まちクエスト2014inちくほう」を担当した、まちづくり委員会。ふるさとを大事に思う気持ちの醸成を掲げ、飯塚・嘉麻・桂川を舞台に二市一町の行政や企業、そして西鉄バスの協力を得て、約500名の参加者と共に二市一町の魅力を巡る事業を実施しました。委員会単独での広域展開、大規模事業の実施は、青年会議所の委員会の可能性を今後に示すものとなりました。

国際交流・民間外交の推進を目的とした台湾の台東国際青年商会への訪問事業、9月の事業「まちづくりってなんだ!!」を担当した、地域の未来開発委員会。青年会議所・行政・地域住民との信頼関係の構築、協調的・継続的な関わりあいを掲げ、自治基本条例により生まれた「まちづくり協議会」との共催という形で、小学生を対象に奉納相撲大会を実施、当日は140名の相撲参加者、200名を越える地域住民の方々にご参加いただき、大きな賑わいがまちに生まれました。1月から11月に亘る「まちづくり協議会」との関わりあいを通じて、青年会議所と行政、そして地域住民との信頼関係、協調的・継続的な関係が築けることを示してくれました。

少子高齢化・世代間格差に代表される地方都市の諸問題について、世代間の意識の差を「共感」を持って埋めていくことを目指して10月に実施された「ジュニアカンファレンス」。担当したひとりづくり委員会は、ディベートという手法を用いて高校・大学生と飯塚市議会議員の方々との討論会を飯塚市議会会議場にて行いました。

緊張に震えながらも市議会議員の方々意見に述べた学生達は、必ず地域の未来を担う存在となって、私たちの地域に必要な人間となってくれるでしょう。事業後の学生の笑顔は、難解なテーマ、困難な事業環境でも真摯に向き合い、対応することで様々な世代を結びつけ、素晴らしい経験や気づきを与えることが可能であることを示してくれました。

夏の風物詩である市民祭飯塚山笠、その運営を補助することは私たち飯塚青年会議所の大切な事業の一つと言えます。担当の山笠委員会は従来の担いにとどまらず、市民祭となっている山笠をさらに多くの市民に知っていただくため、山笠についての情報誌を製作して、山笠の広報に取り組みました。その過程では、二市一町の数多くの人や商店、陸上自衛隊飯塚駐屯地様にもご協力を頂き、結果として私たち青年会議所の広報をも担って活動することとなりました。本誌についても、その経験を活かして山笠委





員会が製作しています。

これからの10年の為に、メンバー同士の関わりあいを深めること、仲間との出会いの素晴らしさを再認識させ、そして絆を強めること。この担いを担当するために、自分達で自分達の為に事業を立案・実施する会員開発委員会を設置しました。

青年経済人として視野を広げる学びの一環として、KADOKAWA・DOWANNGOの川上会長の講演・討論会、青年会議所とは何かを知るために(公社)日本青年会議所より講師を招いての勉強会、メンバー同士の関わりあいを深めるための地引網、青年会議所が持つ様々な機会を十分に理解し、活かしていくために(公社)日本青年会議所の全国大会運営会議議長をお招きしての講演会と年間4回の事業を実施、近年では珍しい取り組みが多く、事業実施には困難を極めたが、結果として委員会メンバーはもちろん、仲間を大切に思い、青年会議所を大切に思うメンバーを数多く作り出してくれました。

青年会議所の基本事業である毎月の例会、そして各種総会を担当した総務例会委員会。対外向けの事業系委員会とは違い、様々な企画を毎月遅滞なく実施していかなければならないこの委員会の成否こそが、その一年間の雰囲気を作ります。回を重ねるたびに強くなる委員会の結束、そして委員会メンバーの成長を見ることができました。メンバーにとって気づきに溢れた例会は、きっと全てのメンバーの参考になったと思います。年間を通してどこよりも多くの議案を作成する委員長は、仕事やプライベートでも忙しいメンバーに、時間に追われるのではなく、時間と向き合うことの大切さを、自らが実践することで教えてくれました。

青年会議所最大の継続事業であり、全体事業。私たち飯塚青年会議所の運動の活性化を支える根幹である会員拡大を担当した会員拡大特別室。2名でスタートした特別室は27名の新しいメンバーを迎え、2014年度最後の対外事業、秋の灯明祭に取組みました。

初めて所属する団体、初めて出会う仲間、初めて事業立案から実施までを経験する中で、新しいメンバーはそれぞれに様々な事を感じたと思います。青年会議所の財産はメンバーであり、それらの個性はメンバーにとっての宝です、きっと彼らの新しい個性は、私たち飯塚青年会議所の宝となって、来年度はさらに強く輝いていくと信じています。

これら事業の数々には、多くの新しい挑戦がありました、それゆえにまだまだ荒削りな部分も多く、今後の検証を必要とするところでもあります。しかしながら、各委員長は理事長所信と委員会基本方針に基づき、首尾一貫した真摯な取り組みを続け、メンバーの助けを得ながら飯塚青年会議所の誇れるリーダーになったと感じています。

私自身、本当に理事をはじめとする多くのメンバーに助けられた一年でありました。

青年会議所とは、20代から30代のまだ未熟なもの同士が、意識を高めるために日々議論を交わし切磋琢磨する、ときには自分を否定されたり、大きなプレッシャーに挫けそうになりながら仲間との絆を強めていく、その過程では様々な負担や犠牲を強いられることもあります。それでも自分自身に向き合い、何のため、誰のためを自問自答していく場であるからこそ、確固たる信念を持つ自分に出会うことができる。そういう場所であることを、この一年であらためて感じる事ができました。

2014年の経験が、全てのメンバーにとって青年会議所のみならず、仕事や家庭、そして自身と関わる人々を幸せにする一助となることを願って、本年度を締めくくりたいと思います。一年間、本当にありがとうございました。

第12回 飯塚灯明祭

2014年度

会員拡大特別室

室長 麻生 将豊

本年度会員拡大特別室では、27名の新入会員と共に灯明事業を行いました。
11回続く灯明だからこそ、新入会員と共に新しい色を出すべく、議論に議論を重ね、ハロウィンイベントとの同時開催や、食フェスなど新しい形の灯明を表現できたと思います。
また、大勢の新入会員を得たことで、日本青年会議所のコンテストにおいて、会員拡大3部門での日本一を勝ち取るに至りました。



大学生がデザインした灯明!!



大勢の来場者を迎えることが出来ました!!



イベントブースも大勢の来場者を迎えました!!



食フェス也大賑わい!!



大勢の協力者と共に灯明作成!!!

3

2014年度

山笠委員会

委員長 白附 友和

2014年度、山笠委員会では飯塚山笠振興会出向にとどまらず、飯塚山笠を二市一町の方々に知って頂き魅力を感じて頂く為、山笠に興味のない方々にも手に取って見ていただけるように工夫をしたザヤマビジョンをメンバー丸となって作成し、約200店舗の飲食店・美容室・銀行等に1000部配布しました。
又、今までにない飯塚山笠広報誌という事で、テレビ・ラジオ・新聞に取り上げて頂き飯塚山笠を広く広報する事が出来たと実感しました。



地域の学生にも協力して頂きました



rkbラジオスナッピーのお二人



ザヤマビジョンを新聞社4社に取り上げて頂きました



追い山当日はメンバー全員で取り組みました!!



rkb今日感テレビにも取り上げて頂き反響も大きかったです!



追い山当日来場特典!!
飯塚花火大会優待席!!
当選したお客様も大喜び!!



スポーツ例会(4月)
委員会メンバー間の結束をさらに強固なものにするために委員会対応のドッチビー(特別ルール)を行ないました。



家族例会(11月)
1年間のJC運動を支えてくれた家族に感謝を込めて、マリンワールド(水族館)を貸し切って例会を行ないました。200名近くのメンバーと家族が集い、同じ時間を過ごすことで、交流を深めました。



総会
一般社団法人格への移行後、初年度ということもあり、定款並びに運営規程の変更点を確認しつつ厳正かつ確実な運営を心がけ実施しました。

2014年度 総務例会委員会

委員長 山口 孝敏

2014年度総務例会委員会は、月に一度行なう例会を11回、と青年会議所運動の根幹ともいえる総会を5回、企画運営いたしました。月に一度、メンバー全員が集うことができる例会は「意識向上」をテーマに企画運営を行いました。厳粛かつ円滑な式典の運営とアワーでは、参加者に有意義な時間を過ごしていただけるようにJC運動やビジネス、プライベートなどに活かしていただける内容のものを企画し、学びや気付きの場となるに企画いたしました。総会においては、スムーズな運営を常に心がけ、厳正かつ確実に実施いたしました。



リラクゼーション例会(9月)
日々、頑張る物事に取り組めるようになるために、「リラクゼーション」について学び、その手法も体験しました。また、青年経済人として、職場のメンタルヘルスの重要性についても知っていただきました。



パーソナルカラー例会(6月)
第一印象を上げるために、自分に似合う色について学び、カラー診断を行ないました。



講演例会(7月)
元WBC世界フェザー級王座の越本氏をお招きし「目標実現力」というテーマでご講演いただきました。

2014年度 会員開発委員会

委員長 松岡 伸治

会員開発委員会委員会は、仲間と共に歩む素晴らしさと楽しさを体験できる場を作るために1年間邁進してきました。飯塚青年会議所メンバーの成長の為、メンバー間の絆を深めていただくために4回の事業に取り組んできました。

第一弾では、会員開発委員会事業に興味を持ってもらうために、ニコニコ動画でも有名なKADOKAWA・DOWANNGO 代表取締役会長 川上 量生(カワカミ ノブオ)様に来ていただきメンバー同士で議論の場を作り、自分の会社、今後のJCの事業について会議を行いました。第二弾ではJCとは何なのか今一度JCを確認するためにJCライフの創造～JCゲーム～を行い、ゲーム感覚でJC入会から卒業までを疑似体験していただきました。第三弾では仲間とは何なのか、ベストチーム～最高の仲間～本当の仲間を作るために糸島の地にて地引網を行い、また自然の恵みをみんなで共有することで仲間の大切さを学びました。

最終章では松山大会(全国大会)に積極的に参加しこの一年間の集大成とし、日本一強固な関係で結ばれた飯塚青年会議所を実践しました。全国大会ではJC活動報告、今年卒業する同志を敬う卒業式典などたくさんの経験をしてきました。1年間事業を通してメンバーの成長が少しでもあったのではないかと思います。又家族の方のご協力があったからこそ私たち会員開発委員会は4回の事業を成し遂げられたことをこの場にてお礼申し上げます。ありがとうございました。以上活動報告とさせていただきます。



8月事業
糸島の地にて地引網を行い、また自然の恵みをみんなで共有することで仲間の大切さを学びました。



5月事業
JC入会から卒業までを疑似体験。



9月事業
全国大会に積極的に参加しこの一年間の集大成とし、日本一強固な関係で結ばれた飯塚青年会議所を実践しました。



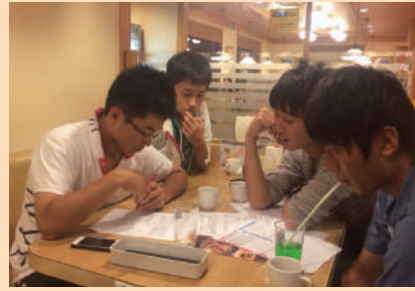
3月事業
メンバー同士で議論の場を作り、自分の会社、今後のJCの事業について会議中。

2014年度

ひとづくり委員会

委員長 大塚 正博

2014年度、ひとづくり委員会ではこのまちの少子高齢化等のリアルな問題を数多くの方に知っていただくために、ジュニアカンファレンス～集まれ!未来を変える若者よ!～と題し、飯塚市議会議場で高校生、大学生と飯塚市議会議員とで討論会を行いました。学生ならではの考えや、市議会議員の皆さんのリアルな声を聞け多くの市民の皆さんに知って、考えるきっかけになったんじゃないかと思えます。



議題作成中!!



討論会スタート!!!



広報活動として駅にてポケットティッシュ配り!



前日リハーサル!

5



事業当日、受付の様子。



会場をおおいに盛り上げた司会者

2014年度

まちづくり委員会

委員長 川波 俊二

2014年度まちづくり委員会では新春祝賀会を担当し、新たなる体制のもと清しく新年のスタートをきれいなメンバー同力を合わせ、厳粛かつ盛大に執り行うことが出来ました。

また、事業においては「まちづくり」でなにが一番必要か、なにが一番大切かを考え「ふるさとを大事に思う気持ち」郷土愛が必要なのではないかという考えのもと『まちクエスト2014inちくほう～まちの魅力をさがしだせ!!～』を行いました。行政及び地場企業の参画のもと、多くの参加者にご来場いただき、にしてつバスに乗りしてちくほうの各地を巡り『クエスト』をクリアして頂くことにより、多くの方にこの街の魅力を発見、または再確認して頂いたことと実感しております。



表彰式の様子



家族みんなで楽しいでいただきました!!



多数の参加者で賑わうクエストポイントの店内



西鉄バスさんにご協力いただき、普段行かない場所にも行って頂きました!

2014年度

地域の未来開発委員会

委員長 玉置 一貴

2014年度、地域の未来開発委員会では姉妹JCである台東JCへの訪問と、まちづくり事業として飯塚市の「まちづくり協議会」と相撲大会を共同開催しました。台東訪問では、事前の例会で留学生から中国語を学び、25名という多くのメンバーで台東の地に赴くことができました。また、襄祖八幡宮での奉納相撲大会では140名を超える小学生に参加してもらい、地域の子どもからお年寄りまで楽しく一日を過ごして頂くことができました。



台東JCとの活動報告会
(左)台東JC 呉會長、(右)飯塚JC 新川理事長



～5月例会～ 台湾や台東について学び、
留学生に 中国語を教えてもらいました!!



子ども達も真剣です!!



相撲大会の会場では地域住民の方々が「焼きそば」や「かき氷」を調理してくれました。



飯塚JC25名で台東を訪問してきました!!(6月)

嘉穂総合高校の先生による相撲教室。
相撲の礼儀作法や決まり手を学びました!!

2014年度 卒業生の声 GRADUATION

私は10数年前に誰ひとり知り合いもないこの地でご縁があり生活しJCに入会する事になりました。異業種の色んな考えをもった、色んな性格の方々と出逢え本気でふれあう事で、自分自身の考え方、あり方が大きく変わる事が出来ました。飯塚JCは、自分がやったらただ、自分を大きく変えてくれる何かがある団体です。同世代の仲間と、自分の為、家族の為、会社の為、まちの為に色んな経験ができました。



森 浩昭

私はサラリーマンの立場でJCに入会しました。周りの人がほとんど社長さんや二代目の方ばかりで、場違いではないのかなと思いつつ自分に壁をつくりJCが嫌いな時期もありました。しかし様々なメンバーの方と接するうちに貴重な出会い、又経験をさせてもらっているのに気づきJCがだんだん好きになりました。出会いに感謝です!!それから、考えてもいなかった委員長(山笠)をさせて頂き大変でしたけど本当に良い経験になりました。JCに入会しないと出来ないこの出会いや、経験は私の財産として今後も大切にしていきたいです。



椿 重之

JCに入会して、通常の生活の中では味わう事ができない事々を経験させて頂きました。私の中で成長した点はJC活動を通して時間配分の組立が上手になりました。又、得た点は他業種の方々と多く知り合うことができ、卒業しても気兼ねなく相談できる相手ができました。入会年数は浅いですが、非常に実のあるJC生活でした。



高橋 勝之

JCに入会して良かった事は、JC関係者はもちろんのことJC活動を通してたくさんの方々に逢えたことが自分にプラスになりました。又、時間の使い方や目的意識をもって行動する事が学べました。年賀状の送られてくる枚数(こちらから送る枚数も)がかなり増えました。(笑)



藤木 秀憲

JCに入会し、色んな地域に向向することにより県内外にもたくさんの友人・仲間ができ、日頃経験できないような事を体験できました。又、そのなかで時間を有効活用することができ、人との接し方、物の考え方、捉え方を学ぶことができました。JCということだけで得た事も数多くあり、仕事を例にあげれば、JCということでもスムーズに受注できたりしたことも多々ありました。



久保井英樹

2015年度理事長スローガン

和敬清寂

未来の明るい豊かな社会を目指して



一般社団法人飯塚青年会議所
第62代理事長

多田 勉

はじめに

一般社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)は61年もの長きにわたり、「明るい豊かな社会」の実現を連綿と続く理想とし活動を行ってきました。しかし、この「明るい豊かな社会」は時代の背景や人によって捉え方は変化しています。それにもかかわらず何故、連綿と続く理想となっているのか。それは、地域をよりよくしたいとの想いで活動を行っているからです。つまり、我々の理想は現在よりも未来をよりよい状況にしていこうと目指しているため理想は永遠と続くのです。

本年度は、よりよい未来をつくるという視点から、未来の地域に起こりうる問題に対して取り組んでまいります。「備えあれば憂いなし」といいます。どのような問題でも早期の段階で対策を考え行動していくことで問題を回避・軽減していくことが出来ると確信し「未来の明るい豊かな社会」を目指して歩みを進めてまいります。

未来のまちづくりに向けて

近年、人口流出について衝撃的なデータが発表されました。それは、地方から都市圏への人口流出が現在のペースで続けば2040年には全国自治体の半分の地域で、20~30代の女性人口が50%以上減少すると人口試算が示されたことです。確かに、この地域でも若い世代の人口流出は現実に進んでおり、将来的に様々な分野で支障をきたすこととなります。私は、このような状況に陥らないためにも人口流出を未来の地域に起こる最重要問題と位置付け、様々な観点からこの問題を解決するために行動を起こし、「住みやすいまち」「住みたくなるまち」づくりをテーマに事業を展開して行きます。

若者が集まる企業誘致

人口流出の主な原因として、地方から都市圏への移動と有効求人倍率の格差には高い相関があるとされています。つまり、雇用の需要が都市圏にある限り、人口流出は今後も続くと考えられます。しかし、最近よく言われることが「雇用の募集をするが若い人が来ない」など、雇用の需要があるにもかかわらず若者が集まらない現状があります。この現状からみれば、単純に雇用の受け皿があることだけで、若い世代が残っていくことにはならないと考えられます。

雇用の創出が若者の定住に不可欠であることは間違いないのですが、若者がどのような企業を望んでいるのか、そういったことを重視しながら、企業誘致など様々な方法で若者が集まるまちづくりを目指して事業を行います。

子どもたちが地域に根付くために

私は飯塚JCに入会して「地域のために何ができるのか」を考え、日々活動していくうちに多くの人と出会い、様々なことを学び、地域に対する想いを強めてきました。おそらく、私はこの想いを抱きながらこれからもこの地で人生を歩んでいくでしょう。この郷土を愛する精神、いわゆる郷土愛というものは、個々の家族愛の上に成り立つものであると私は考えます。なぜなら、私たちが人生で初めて関わりあう社会が「家族」であり、それによって育まれた心の豊かさがあるこそ故郷を愛することができると思うからです。

核家族化、更には家族の個人化が進む中で、仕事や学校、習い事や塾などで誰もが忙しく、親と子が向き合うことの少なくなった現代だからこそ、限られた時間でのコミュニケーションの大切さを重視し、親子の絆づくりのきっかけを生み出す事業を行います。

未来へとバトンを繋ぐために

未来が安心して住みやすいまちであるために、我々は地球温暖化、大気汚染、酸性雨、水質汚濁、森林破壊など様々な環境問題から目をそらすことはできません。地球規模で漠然とした問題として捉えがちな環境問題ですが、実は我々の日常と直接結びついていることが多く、一人でも多くの方が問題意識、危機意識を持ち、何らかの行動を起こしていくことが最大の解決策であると考えられています。そこで、行政と連携し、日本でどのような対策が行われているかを学び、問題解決に向けて取り組みます。また、地域の

方々に問題意識、危機意識を喚起し、共に考える場を設けることで意識を高め環境問題の更なる解決策を地域から発信できるよう、進めてまいります。

先人が多くの問題に取り組み、弛みない努力によって現在の豊かな社会が築かれたように、我々もこの大きな問題に向けて取り組んでいくことが、「未来の明るい豊かな社会の実現」に必要不可欠であると確信します。

食の大切さを知る

日本は飽食の時代と言われている反面、食料の大半を輸入に頼り世界情勢の変化によって食糧危機がいつ訪れてもおかしくない状況でもあります。そんな両極端な状況にあるからこそ危機意識を持ち今一度、食料資源の大切さを考え直す時期に来ているように思います。

日本の食料事情に関する知識を深め、様々な経験を通じて食の大切さやありがたさを改めて感じる事が出来るように事業を行います。

広報と地域活性化

我々は、日々地域の未来を考え地域に必要とされる事業を構築しています。また近年では、自治体の方々と連携を計り、地域の情報を取り入れた事業も展開しています。そして、多くの地域内外の方々を対象に広報活動を行っています。そんな我々の広報活動は、地域の宣伝を行っていると言っても過言ではありません。

我々の事業、その中にある意識変革へのメッセージを多くの方に知って頂くことに加えて、今後は、地域の宣伝マンという気概をもって更に広報活動を推し進めてまいります。そして、現代社会の多様化した広報媒体を駆使し、より効果的により多くの方々到我々の地域、事業、活動を伝播していくノウハウの確立を目指します。このことは我々の飯塚JCの活性化だけではなく、地域の活性化にも繋がるものとなると確信いたします。

和敬清寂の精神

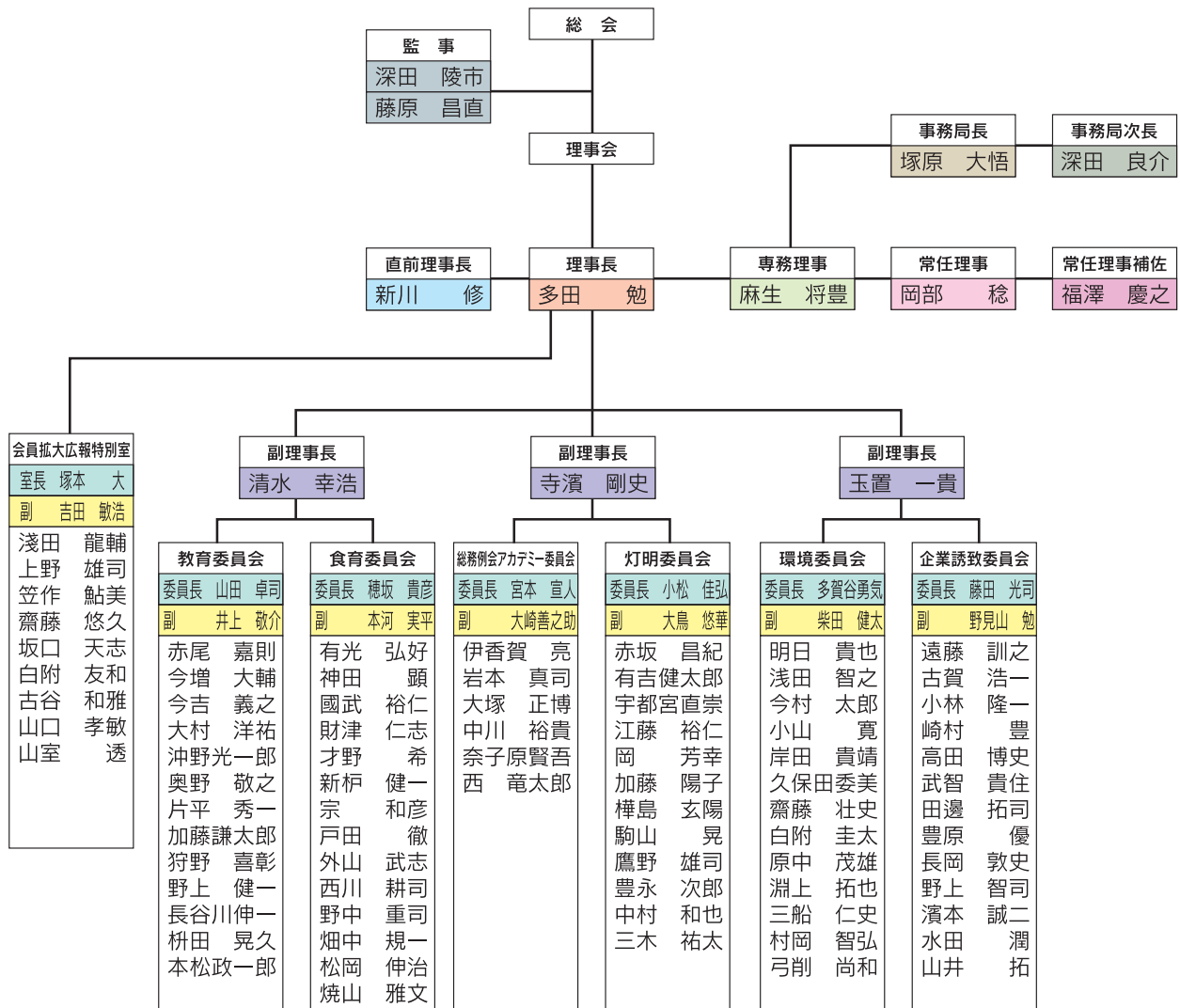
リーダーとはどんな人物なのかを考えると、気質だけでいえば、様々なタイプがリーダーと成り得る。しかし、リーダーとは言えない状況が共通してある。それは一人であるということ。集団の中であればこそリーダーとなれるのであって一人ではそうはならない。そういったことから考えれば、多くの人から支えてもらえる人物こそがリーダーと言える。では、多くの人から支えてもらえる人物であるためにどうあるべきか。私は、人と人の和を大切にし、他人に対して敬い、自分自身で心を清め素直な心をもって、日常の努力により、どんなときにも慌てない「和敬清寂」の精神こそが必要なのだと思信している。

我々は、これから行うことに対して多くの方々との接点を持ち協力を求めていくことになる。100名以上の会員が「和敬清寂」の精神で臨めば、多くの協力を得て必ず成功を収める事が出来る。私もこの精神を常日頃から心掛け、在籍11年の中でも最大の努力で事に当たり我武者羅に突き進んでいく一年としていきたい。

基本方針

- ・若者が集まる企業誘致
- ・親子間の絆を深める事業
- ・未来のための環境問題への取組
- ・食の大切さを知る事業
- ・次代に繋がる広報活動
- ・地域主体の灯明事業
- ・総会・例会の運営
- ・三大多行事の運営
- ・飯塚JC全体で取り組む市民祭飯塚山笠支援
- ・会員全員で行う会員拡大

組織図



 <p>理事長 多田 勉 株式会社 多田組</p>	 <p>直前理事長 新川 修 新川工業株式会社</p>	 <p>副理事長 清水 幸浩 株式会社 瑞建工務店</p>	 <p>副理事長 寺濱 剛史 株式会社 エス・シー・エム</p>	 <p>副理事長 玉置 一貴 株式会社 玉置</p>
 <p>専務理事 麻生 将豊 株式会社 麻生</p>	 <p>常任理事 岡部 稔 株式会社 初音</p>	 <p>常任理事補佐 福澤 慶之 株式会社 上嘉穂貨物自動車運送機</p>	 <p>事務局長 塚原 大悟 株式会社 始めがねのツカハラ</p>	 <p>事務局長次長 深田 良介 株式会社 深田環境開発工業</p>
 <p>監事 深田 陵市 株式会社 南星観光</p>	 <p>監事 藤原 昌直 株式会社 嘉穂園芸</p>			

New!

室長

塚本 大
 ㈱中央産業

一般社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)では、これまで積極的な会員拡大を行い、直近10年で平均10名以上の新入会員を迎えており、本年度は100名を超える会員でのスタートと福岡ブロック内でも有数のLDMとなりました。会員拡大は入会候補者に対して2~3年かけてアプローチしていくことが多いため、前年度の結果と合わせて、担当者間で毎年の引継ぎが行われています。しかし、それは候補者リストの引継ぎが主であり、実際にはその会員拡大に至るプロセスや失敗例、本当の苦労や工夫、改善点があるにもかかわらず、それが目に見える形として残ってきていないのも現状です。そのため、実際の拡大についても担当者や経験者が中心であったように思います。これまでの拡大の過程や結果、入会に至る流れ、ポイントなどが目に見える基本的なツールとしてあれば、担当者や経験者以外でも会員拡大がより行いやすくなると考えます。さらに、1年間の活動の結果を検証しながら、年々改善していけるようなツールとすれば、より多くのメンバーが会員拡大を行えるようになり、将来的にさらなる成果を上げ続けていけると考えます。

広報についても、これまでのJC運動を通して、2市1町の行政各担当の方との繋がりを深め、事業広報に関して多くの協力をいただき、事業の構築から連携して行うこともありました。同様に、各種媒体からは広告掲載だけではなく、事業等に対して取材を受けることも多く、毎

年いくつもの事業に関する記事が掲載されてきました。しかし、事業によっては参加や協力を依頼したい相手にうまくアプローチできなかったことやチラシやポスターの内容が相手に伝わりにくかったこと、広報スケジュールの見通しが甘く、想定していた動員に達しないケースがありました。こういったケースを減らすために、また、これまで行ってきた広報活動の成果を今後の事業に生かすためにも広報に関する基本的なツールを作成します。そして、事業広報に役立つ情報として各委員会へ発信します。飯塚JCの全体広報に関しては、当室においてこれまで以上に積極的に行っていきます。最後に、広報の過程や結果、効果についてもしっかりと検証と改善を行い、次年度以降の広報活動へも役立てていただけるよう引き継いでいきたいと思っています。

以上、当室ではこれまでの成果と反省を踏まえ、まずはたたき台となる会員拡大ツールと広報ツールを作成し、各委員会で実践していただけるように努めます。そして、その基本的なツールの活用結果や効果に対して、一年を通して検証と改善を行い、さらなる未来の会員拡大と広報の成果へと繋がるノウハウの確立を目指します。

そして、当室のもう一つの担いである台東国際青年商会との交流については、メンバーにとって貴重な国際交流の機会を活かせるような場を準備し、これまで諸先輩方が深めてこられた姉妹JCとしての友情の絆をさらに深められるように企画していきます。

副室長

New!

吉田 敏浩
 筑豊印刷㈱

New!

浅田 龍輔
 セフティ・システム

New!

上野 雄司
 舞鶴設備工業㈱

New!

笠作 鮎美
 ㈱麻生 飯塚病院

New!

齋藤 悠久
 ㈱グッドラック


坂口 天志
 ㈱飯塚電設


白附 友和
 佐藤測量設計㈱


古谷 和雅
 ㈱古谷金物店


山口 孝敏
 写真の和光


山室 透
 親和塗料

教育委員会

委員長

山田 卓司
 ㈱山田建巧

『教育とは社会で生きていくための力を身につけること 人間同士が共に生きていくための思いやりや気遣い、優しさである』

社会では、子どもが問題を起こすと、すぐに学校教育のせいにしてしがちな傾向があります。しかし、私が思う教育というのは、家庭から始まるものだと考えております。親と子がしっかりふれあい、共に遊び、そして親子の会話を楽しむことで、親子間の絆が深まります。それが思いやりや気遣い、優しさを育てていきます。しかしながら、核家族化、さらには家族の個人化が進む中で、学校や仕事、習い事や塾などで、誰もが忙しくしている現状があり、親子間の絆が希薄になってきているのではないのでしょうか。そこで親子間の絆を見つめ直したいと考えます。私たち教育委員会は絆を結うものとなる私は、親と子が共に過ごす時間が、昔と比べ極めて少なくなってきた今だからこそ、親と子の絆を感じていただきたいと思

います。共に笑った思い出、共に流した涙、共に過ごした時間、その数の分だけ絆は強くなります。この絆こそ、人間同士が共に生きていくために必要不可欠であると信じています。親子間の絆を深めることにより、人は心豊かな人間へと成長していくことでしょう。人は一人では生きられません。人は社会の中で多くのものに支えられ、繋がりが生きています。

私は、教育を通して社会で生きていく力を身につけていくために、人生で初めて関る家庭という社会の中で、家族の絆を感じ、一人ではないことも学んでほしい。私たちの暮らすこのまちの中で、親と子の絆を感じて育つからこそ、この故郷を愛する気持ちが芽生えてくと確信しています。私は教育には無限の力があると信じています。

教育委員会メンバー一同硬い結びつきで事業の成功に向けて一年間邁進してまいります。

副委員長

New!

井上 敬介
 ㈱マイルド薬局

New!

赤尾 嘉則
 ㈱赤尾組

New!

今増 大輔
 ㈱東進

New!

今吉 義之
 ㈱アイジャパン

New!

大村 洋祐
 ㈱日本バボルナ

New!

沖野 光一郎
 NEXT INNOVATION

New!

奥野 敬之
 ㈱カイト

New!

片平 秀一
 ㈱三豊

New!

加藤 謙太郎
 ロケット石鹸㈱

New!

狩野 喜彰
 ㈱かの住建


野上 健一
 DEEP


長谷川 伸一
 ㈱ワーキングハセガワ

New!

柘田 晃久
 アジア総合法律事務所 飯塚事務所


本松 政一郎
 社会福祉法人 葛城福祉会 三豊園

食育委員会

16

委員長

穂坂 貴彦
 農事組合法人 穂坂牧場

『食育とは生涯を通じて、実体験や学習を基に、食料の大切さを再認識する取組みである』

現在、日本の食生活は、飽食の時代と言われるほど豊かになりました。それに関わらず、近年では食育を進める政策や団体及び個人の方々が増えてきている状況があります。これは国内生産の減少に伴う食料自給率の低下や、海外製品に対する安全性の疑問など食に関する様々な問題や課題があるからです。しかしながら、手軽に食料を購入できる環境があるのも事実です。その中でどの程度の方が食に対しての危機意識をもっているのでしょうか。世界情勢や天候不良などに左右され、食料不足に陥る可能性も危惧されている中、改めて私たちは、食料の大切さを知ることが重要ではないでしょうか。

そこで本年当委員会では、食料に関連する個人や団

体の方々と協力しあい、今ある当たり前が当たり前ではないことに気付いてもらうこと。今後予測される食料不足や食料問題について知って貰い危機意識を持ってもらうこと。食べ物を粗末にしないために、生産の実情を通じて、食料問題をより身近な問題として捉えていただくことが食料の大切さを知るうえで必要不可欠ではないかと考え、事業を展開していきます。

食育を通して今まであまり意識せず過ごしてきた食生活に気づきを与え、一人ひとりがいろいろな角度から関心を持つことで感謝の気持ちが芽生えます。さらにその気持ちが地域へと広がっていくように事業を発信していきます。人生において豊かな心を育み健全な身体を維持していくことこそが、『未来の明るい豊かな社会』の実現へ繋がることと確信し一年間邁進してまいります。

副委員長

 本河 実平 本河住建	New!  有光 弘好 皇祖神社	 神田 顕 楠南風堂	 國武 裕仁 株式会社ハウジングタイセイ	New!  財津 仁志 (資)内橋商店
New!  才野 希 佛福岡銀行 飯塚支店	 新 栞 健一 メットライフアロジ生命保険	 宗 和彦 やしま整骨院	 戸田 徹 カーコンビニ倶楽部 ソロ川津店	 外山 武志 株式会社KMG
 西川 耕司 西川歯科医院	 野中 重司 光代自動車整備工場	 畑中 規一 有限会社荒木食品産業	 松岡 伸治 株式会社デンシン	 焼山 雅文 株式会社ティップショー



10

総務例会アカデミー委員会

8

委員長

宮本 宣人
 宮本急送(有)

今年度一般社団法人飯塚青年会議所(以下 飯塚JC)は、100名を超える多くのメンバーでスタートとなります。一人ひとり想いや考えなどが異なる多くのメンバーで、目的に向かってJC活動を行っていくためには、飯塚JCメンバー全員が今まで以上に一致団結していく必要があると考えます。

そこで本年度当委員会では、理事長の掲げるスローガン『和敬清寂』の精神をテーマとし、例会を通じて多くのメンバーに、この精神を理解して頂くため、企画・運営を行っていきます。

「和」は平和の和であり、お互いに仲良くすること。和は人間社会において心の基本である。

「敬」は長上に対する尊敬であり同僚や友人に対する敬愛でもあること。何事にも感謝する心が大切である。

「清」は心の中も清らかであるということ。自分自身で心を清めようとする素直な心が大切である。

「寂」はどのような事態であっても、乱されることのない不動心のこと。日常の準備により慌てない心が大切である。

この精神をしっかりと理解して頂ければ、人と人との繋がりを大事にする心が芽生えることで、委員会の垣根をこえた協力関係が築け、一致団結した飯塚JCができることと確信します。

アカデミーメンバーの育成に関しましては、いつのタイミングで入会しても和敬清寂の精神を理解させ、総会・例会の企画・運営に携わり、JC活動の基本となる部分に触れてもらうことで、力強いJAYCEEを育成し、さらにはリーダーへと成長できるように委員会全体で支援しながら育成していきます。

総会では、厳粛で確実な運営を行い、諸業務等もスムーズに且つ適切に行います。

副委員長

 大崎 善之助 ひまわり不動産サービスセンター	 伊香 賀 亮 オフィスイコウガ	New!  岩本 真司 株式会社イワキン工業	 大塚 正博 株式会社三信ビル管理	New!  中川 裕貴 飯塚中川証券(株)
 奈子原 賢吾 奈子原建設	 西 竜太郎 株式会社西組			

灯明委員会

14

委員長

小松佳弘
㈱パーソナル・グラス・アイスク

灯明は、一般社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)の例年の事業として開催されています。その中で灯明は、毎年様々な形で行なわれ、徐々に協力企業、協力団体を増やして参りましたが、継続や運営にあたり方針が明確に定まっていない現状があります。これから先も灯明を継続していくためにはこれまでの経験を踏まえ、様々な取り組みを行い明確な方針を確立することが必要だと考えます。

そこで本年度は飯塚JCが中心となって活動していた灯明を、より魅力ある灯明へと前進させます。そのためには、まず我々が主体となって行ってきた灯明を精査し、方針を練り上げていきます。そして我々飯塚JCだけでなく、よりよい地域事業にしていくために自治体をはじめ地域の方々と協力しながら、より多くの方々が参加したくなるような魅力あるものにします。さらに地域が主体的に

動いて続いていくような灯明にします。それにより、関わるすべての方々がその地域の知的財産を大切に育んでいくこと、それが住みまちの発展と明るい未来への前進となるのです。灯明を通し、飯塚JCの活動が地域社会の発展に貢献出来るよう邁進して参ります。

飯塚JCが続けてきた灯明は2000人を超える規模の集客を見込める事業として成長してきました。それは筑豊地区で非営利イベントとしては大きいと言える規模であります。この人が動く機会を利用して、別の事業を同時開催致します。地域内外を問わず巻き込み、灯明、筑豊、飯塚、そして飯塚JCをたくさんの方々に知って頂けるような事業を構築します。今から先をもっと素敵に。更なる発展をするために、1年間我武者羅に走って参ります。

副委員長

 大鳥悠華 <small>㈱グリーンアース</small>	 赤坂昌紀 <small>㈱緑親園</small>	 有吉健太郎 <small>㈱筑豊調味</small>	 宇都宮直崇 <small>震祖八幡宮</small>	 江藤裕仁 <small>㈱トーン</small>
 岡芳幸 <small>㈱笠置建工</small>	 加藤陽子 <small>㈱福岡カホスインギスクール</small>	 樺島玄陽 <small>龍王ガス㈱</small>	 駒山晃 <small>㈱綿惣</small>	 鷹野雄司 <small>タカノ歯科医院</small>
 豊永次郎 <small>㈱麻生 飯塚病院</small>	 中村和也 <small>福岡クリエイション開発㈱</small>	 三木祐太 <small>㈱三木</small>		

11

環境委員会

15

委員長

多賀谷勇氣
㈱イオス

現代に生きる我々の生活環境は、先の高度経済成長期を境にとっても豊かなものになりました。ですが、その経済的豊かさを優先させてきた代償として様々な環境問題を引き起こして来たのも事実です。そして、現在もその問題は規模の大小に関わらず、地域の身近な場所でも起こり続けているのではないのでしょうか。そういった現状を踏まえた上で、多くの方はその様な環境問題に対し、漠然とした知識はあってもその問題に対して何故そうなのか、どうすれば解決できるのかといった考えまでには至っていないと感じます。確かに、今日を生活していく上で今すぐ解決しなければならない様な問題は少ないのかもしれませんが、しかし、このまま環境問題に対して一人ひとりの意識が高まっていかなければ、地域の環境が悪化していくことはあってもよい方向へ変化してい

くことはないと考えます。
 そこで当委員会では、まずこの地域における環境問題やその取り組みについて、行政や他団体等の方々と意見交換を通じて情報を収集し、その問題点や可能性を精査致します。また、事業を実施することで地域の方々にその内容を発信し、これまで漠然としか知らなかった環境問題が実は自分たちにも関係していることや、一人ひとりの取り組みが環境保全への第一歩となることに気付いて頂く機会とします。そうすることで、環境問題に対する一人ひとりの意識が高まり、未来の地域が住みやすいまちになる確実な一歩となると確信し、一年間全力で活動してまいります。

副委員長

 柴田健太 <small>㈱ユーエスオート</small>	 明日貴也 <small>GLEAN-LIFE㈱</small>	 浅田智之 <small>タイワ印刷㈱</small>	 今村太郎 <small>㈱福岡中央銀行</small>	 小山寛 <small>㈱小山産業</small>
 岸田貴靖 <small>三協技建㈱</small>	 久保田委美 <small>㈱麻生 飯塚病院</small>	 齋藤壮史 <small>斉藤造園</small>	 白附圭太 <small>AUTO-GARAGE KEITA'S</small>	 原中茂雄 <small>KRC桂川</small>
 淵上拓也 <small>バームハウス</small>	 三船仁史 <small>㈱末廣</small>	 村岡智弘 <small>㈱村岡食品</small>	 弓削尚和 <small>ユゲデンキ㈱</small>	

委員長

藤田 光司
 電王運輸(株)

私たちの住むこの地域では、様々な影響で人口が今後も減り続けるといわれています。この地域に雇用の需要があるにもかかわらず、都市部へと就職していく子どもを産み育てる世代の増加が、人口減少の大きな要因だと私は考えます。この地域を支えていく若者が増えていかなければ、この地域はより高齢化社会になっていき、この地域を支えることができなくなってしまいます。だからこそ、いま、若者の人口減少という問題に真剣に取り組み未来をよりよい状況にしていかなければなりません。このことを考えた時、私は一人でも多くの若者たちにこの地域に住みたいと思う気持ちを持ってもらうことが必要であり、そのためには若者が生活をしていく上で働きたいと思える魅力的な企業がこの地域にあることが必要不可欠だと考えます。

そこで、本年度企業誘致委員会では、「若者にとって魅力的な企業誘致」をテーマに企業の誘致活動を行ってまいります。青年経済人としてこの地域の「明るい豊かな社会」をめざす私たちが、魅力的だと考える企業に誘致活動を行うことによって、私たちにしかできない企業との接点を持つことができると考えます。

そして、企業誘致活動から得られた企業との関係や誘致につながる情報をもとに事業を実施することで、企業誘致につながると確信します。また、その結果、この地域に若者が集まる足がかりになり、ひいては人口減少に歯止めをかける第一歩になると考え一年間邁進してまいります。

副委員長

 野見山 勉 (株)グリュックス	<p>New!</p>  遠藤 訓之 親和電設工業(株)	 古賀 浩一 (株)セントコーポレーション	 小林 隆一 (資)小林硝子店	 崎村 豊 崎村組
 高田 博史 (有)高田工業所	<p>New!</p>  武智 貴住 武智社会保険労務士事務所	 田邊 拓司 (有)サンクスライフ	 豊原 優 あおい合同土地家屋調査士事務所	 長岡 敦史 (株)ジェイ・イー
 野上 智司 (株)のがみ組	 濱本 誠二 福豊帝酸(株)	 水田 潤 茜ゴルフクラブ	<p>New!</p>  山井 拓 城西日本シティ銀行 飯塚支店	

2014年度 新会員の声 NEW COMER

JCという存在は知ってはいましたが、主に何をやっている団体かは分からず、漠然と地域おこしや町おこしを行っている団体というくらいの認識でした。入会して一番感じていたのは、人との出会いの多さです。このたくさんのお会いの中で学ぶことも多く、この知識や情報、手段などが仕事上でも私生活においても、とても役立つと感じています。そして、ここで学んだことを充分活かして今後の青年会議所運動を行い「明るい豊かな社会」になるような事業を創っていかうと思えます。

吉田 敏浩



JCに入会して感じたことは、みんな本気なんです!本気で議論してるんです。実際最初はびっくりしました。そして仲間意識が高いです。JCの事業でもみんながそれぞれ自分の時間を使って参加し手伝いよりよい事業にしてやろうという思いが伝わってきます。最後にJCは大変ですが、やったらやっただけ達成感があります!今までの自分とは明らかに違う自分が出てきます。その違う自分を仕事や私生活に出していったらもっといい人生を送りたいと思っています。

柴田 健太



深田 良介



JCの入会する前の印象は自分自身が成長できる団体だなと思って入会し、実際入会してみると自分自身の成長だけでなく、地域の事なども真剣に考える団体だと感じました。入会して得た事は、知り合いが増え仕事やプライベートに幅が広がりました。

JCに入会するまでは、正直なところ活動内容は知りませんでした。しかし、入会后、会議や活動に参加させていただき、各活動が真剣な議論の末、テーマや目的に基づき、体系的にきちんと進めている組織であるということを知りました。また、メンバーの明るさ、温かさに触れることができ、相手を思いやることの大切さを改めて感じています。これからもどうぞよろしくお願ひします。

久保田委美



JCに入会する前は、JCに入っている方は正直暇な方ばかりかなあと感じていましたが、実際入会してみると皆さん真剣に意見を交わし、忙しい中時間のやりくりをして参加し、いつのまにか自分も同じ様に委員会・事業に参加していました。たくさんの方々と出会い、笑い、怒り、泣き仲間になれる団体だとおもいました。

井上 敬介



JCに入会する前のJCの印象は、ただ集まってお酒を飲む団体かなと思っていましたが、入会して委員会等に参加すると皆さんが真剣で地域の事を考え、議論されている姿には感動しました。又、入会して他業種の方々とも知り合いになり普段接する機会がない方とお話することができ自分自身非常にプラスになってます。入会して本当に良かったです。

本河 実平





一般社団法人飯塚青年会議所

会員募集

青年会議所(JC)は“明るく豊かな社会”の実現を理想とし、
 時代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。
 私たちは現在、国内696余りの都市に約3万7千人の会員を擁し、全世界133カ国の地域に活動拠点があります。
 青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。
 私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、
 「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

(一社)飯塚青年会議所は、あなたの力を求めています！

私は、青年会議所について聞かれた時「青年会議所はまちづくりとひとづくりを行う団体です」と答えています。青年会議所はこのように考えています。家庭・学校・企業等、これらは全て「ひと」によって成長して行きます。そして、私達の生活している「まち」も「ひと」によって構成されています。青年会議所は40才までの団体であり、そのわずかな時間の中で「まちづくり」を行うことは大変難しいことです。しかし、いろんな事を経験し、体験することで「私」という「ひとづくり」を行い、「豊かな考え」のできる「ひと」に成長すれば、それが「豊かなまちづくり」につながるのです。青年会議所の活動は「もの」をつくる町づくりではなく、「ひと」をつくる町づくりです。青年会議所とは40才までにやり遂げる団体ではなく、入口なのです。

●対象者● 飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務先を有する20才から37才までの健全な方であれば男女を問いません。
 詳しくは下記飯塚青年会議所事務局までお問い合わせ下さい。

2014年度山笠委員会制作

■ 委員長/白附 友和
 ■ 委員/阿部 倫哉
 ■ 担当副理事長/深田 陵市

■ 副委員長/本松政一郎
 ■ 岡 芳幸 片平 秀一
 ■ 竹野 嘉一 武本 一利

■ 鐘ヶ江 勲 榊島 玄陽 高橋 勝之
 ■ 野中 重司 山田 卓司 今吉 義之

2014年12月発行

一般社団法人 飯塚青年会議所

〒820-0017 福岡県飯塚市菰田西3丁目18-11 TEL 0948-23-0292 FAX 0948-24-3471
 ■ E-mail info@iizuka-jc.com ■ URL http://www.iizuka-jc.com/

第60号発行 (vol.60)